Solvyren 製品白書

v0.4.0 · 2026-11-25 · メインネット版

参加、ネットワーク記録、計算サービスを明確に。

> 発行計画では、各ブロックの報酬枠の 80% を AI タスクに配分します。検収済みのタスクがなければ配分枠だけが累積し、その分のコインは発行されず、市場にも流通しません。

概要

Solvyren はメインネットが稼働中のプルーフ・オブ・ワーク型ブロックチェーンです。ブロックは GPU で計算する MatMul 型作業証明 Solvyren MatrixWork SMW-16/2048 v1 で生成され、履歴は GRANDPA ファイナリティで確定します。互換 GPU があれば、公式プールまたは自身のノードで今すぐ採掘でき、すべてのブロック・送金・報酬は SVYscan で確認できます。

長期的な製品は GPU 計算ネットワークです。Solvyren は推論・画像生成・動画生成を含む利用者向け AI サービスを開発しており、あわせて提供者の GPU と自社運用サーバーの計算力を集約するプラットフォームを構築しています。両者をつなぐ考え方が「1 枚のカードを 2 つの用途に」です。同じ GPU が SVY を採掘し、AI 側の公開後は有料 AI ワークロードにも対応し、スケジューラーが 2 つの役割を切り替えます。

本白書は、稼働中のネットワーク、それが取り組む市場課題、開発中の AI・計算プラットフォーム、SVY の経済設計とロードマップを説明し、現在稼働しているものと構築中のものを区別します。AI 推論、本番推論 API、提供者の受け入れ、クラウドサーバーの購入はまだ公開されていません。

01 / ビジョンと利用者価値

参加は画面上の速度表示だけで終わるべきではありません。機器所有者は作業要件と運用費を、計算サービス利用者は選ぶ資源と提供範囲を理解する必要があり、双方に確認できる記録が必要です。

Solvyren はこれらの要件を軸に設計されています。採掘は公開された発行計画に従って SVY を得ながら、透明なルールでネットワークを守る手段です。開発中の AI・計算プラットフォームは、同じ GPU を有料利用者のための有用な計算に活かすことを目指します。ネットワーク作業、サービス料金、報酬はそれぞれ正しい文脈で示され、ブロック・取引・アカウント活動で追跡できます。

中核となる価値提案は「1 枚のカードを 2 つの用途に」（第 03 章）です。1 枚の GPU がチェーンを守り、AI 計算も提供できます。採掘者にとっては既に稼働中のハードウェアにもう一つの用途が生まれ、ネットワークにとっては実際の AI 需要が利用できる GPU 基盤になります（第 04・05 章）。

02 / 市場環境：AI 計算の需要と供給

AI 計算の需要は大きく、なお拡大しています。規模を控えめに捉えるには、ベンダー予測ではなくエネルギーと投資のデータを見るのが適切です。国際エネルギー機関（IEA）は、2024 年のデータセンターの電力消費を約 415 TWh（世界の電力消費の約 1.5%）、2024 年のデータセンター投資を約 0.5 兆米ドル（2022 年のほぼ 2 倍）と推計しています。同機関の基本シナリオでは、2030 年までにデータセンターの

電力消費は 2 倍以上の約 945 TWh に達し、最大の要因は AI とされています [1]。これらは機関レベルの概数で、データセンター部門全体を示すものであり、Solvyren が対象とできる市場ではありません。予測が実現しない可能性もあります。

ワークロードの構成も変化しています。大規模モデルの学習は、密に接続されたクラスターで行う集中的・一回限りの取り組みです。推論（学習済みモデルで要求に応答すること）は AI 製品が使われるたびに発生し、利用量とともに増えます。画像生成、特に動画生成は 1 件あたりの負荷が大きい処理です。多くの推論・生成ジョブは高性能な GPU 1 枚で実行でき、大規模な学習クラスターを必要としません。

供給は集中しており、コストも高い状況です。高性能アクセラレーターの多くは少数のハイパースケールクラウド事業者や大規模事業者が保有し、企業向けの価格設定で長期契約が求められることもあります。IEA は、送電網への接続や機器の制約が新しいデータセンター計画を遅らせうるとも指摘しています [1]。一方で、RTX 5090 や RTX PRO 6000 クラスの高性能なコンシューマー・ワークステーション GPU の多くは個人や小規模事業者が保有しています。これらのカードは一日のうち遊休時間があることが多く、所有者には推論や生成の需要を持つ顧客に直接届く経路がほとんどありません。

分散した計算力を使えるサービスにするには、ハードウェアだけでは足りません。機器を登録・識別し、ジョブを適した GPU に割り当て、実際に提供された作業を計量し、双方が確認できる形で精算する調整レイヤーが必要です。それがなければ、買い手は分散した供給を信頼できず、所有者は需要に届きません。

ここに Solvyren の位置付けがあります。プルーフ・オブ・ワーク型メインネットは、GPU 所有者がカードをネットワークで稼働させる理由を既に提供し、精算の基盤となるアカウント・取引・ファイナリティ記録を備えています。開発中の AI サービス（第 04 章）は計算需要を直接生み出すことを目指し、プラットフォーム（第 05 章）はその需要を提供者の GPU と自社運用サーバーに振り分けるよう設計されています。AI サービス収益は、プラットフォームと作業を担う GPU 提供者の間で 20% / 80% に配分する計画です。「1 枚のカードを 2 つの用途に」（第 03 章）が両者をつなぎます。チェーンを守るハードウェアが、そのまま AI 需要に応えられるハードウェアになります。

この分析は SVY の価格、収益、リターンの予測ではありません。市場環境、競争、技術は変化し、Solvyren の AI 側はまだ開発中です。

[1] 国際エネルギー機関（IEA）『Energy and AI』エグゼクティブサマリー、2025 年。
iea.org/reports/energy-and-ai

03 / 1 枚のカードを 2 つの用途に

「1 枚のカードを 2 つの用途に」は Solvyren への参加の中心となる考え方です。Solvyren に接続した GPU には 2 つの役割があります。第一に採掘です。SMW-16/2048 v1 の作業を計算してメインネットを守り、プロトコルに従ってブロック報酬を得ます。この役割は現在利用できます。第二に、AI 側の公開後、同じ GPU が有料利用者のために推論・画像生成・動画生成などの AI ワークロードを処理し、採掘に加えて利用料や手数料を得られます。この役割は開発中で、段階的に提供されます。

2 つの役割はスケジュールで切り替えるもので、1 つのジョブとして同時に混ぜて実行するものではありません。AI ジョブが GPU に割り当てられると、スケジューラーはそのカードを採掘からジョブへ切り替え、ジョブの終了・失敗・ハートビート切れで採掘に戻します。設計上、AI ジョブ中はハートビート・進捗・ジョブ受領が有効な間に限り、60–120 秒のローリング予約でプール内の採掘者の持ち分を保持し

ます。採掘報酬と AI サービス収入は別々に会計処理され、AI の出力がブロック証明として扱われることはありません。

採掘者にとっては、自分で顧客を探さずに同じハードウェアのもう一つの用途が生まれます。ネットワークにとっては、既にオンラインで計量され、オンチェーンのアカウントに結び付いた GPU を AI サービスと計算プラットフォームが活用できます（第 04・05 章）。いずれの役割の収入も需要とネットワーク状況に左右され、保証されません。

04 / Solvyren AI サービス（開発中）

Solvyren は利用者向けの AI サービスを開発しています。予定している機能は、AI 推論（テキストやチャット形式の要求）、画像生成、動画生成で、Solvyren のアプリと API を通じて提供します。本サービスは開発中で、正式な提供開始や一般公開はしておらず、本番推論 API も公開されていません。使用するモデルはサービス公開時に説明します。本書はモデルを社内でゼロから学習したとは主張せず、性能・品質・モデル規模についても何ら主張しません。

AI サービスがネットワークにとって重要なのは、GPU 計算への直接的な需要を生み出すよう設計されているためです。各要求はジョブとなり、プラットフォームが提供者の GPU または自社運用サーバーに振り分けます（第 05 章）。これが「1 枚のカードを 2 つの用途に」（第 03 章）の実際の価値になります。

推論・画像生成・動画生成の利用はサブスクリプションのプランで支払う予定です。開発者や企業は従量制の API で同じ機能を呼び出せる予定です。プラン名、価格、利用枠は未定で、サービス公開時に発表します。

API レイヤーは共有計算力の主な使い道の一つです。GPU 提供者（カードの計算力を共有する採掘者を含む）は、これを通じて AI 利用者の要求を処理します。サブスクリプション利用者と API 顧客はサービス利用料を支払い、作業を担った提供者は採掘報酬に加えて追加のトークン報酬を得ます。

AI サービス収益の配分計画は、プラットフォーム 20%、AI 利用者に対応する GPU 提供者 80% です。API 利用収益は 80% の提供者分に含まれます。この比率は提供開始前に見直される可能性があります。これはブロック報酬の発行とは別であり、第 11・12 章の SVY 供給量と発行計画（各ブロックの報酬枠を採掘と AI 報酬枠に 20% / 80% で分ける仕組みを含む）を変更しません。提供者の収入は需要に左右され、保証されません。

AI サービス収益の配分計画	割合
プラットフォーム	20%
AI 利用者に対応する GPU 提供者（API 利用収益を含む）	80%

05 / サーバー出力：クラウドコンピューティングと GPU 計算サービス

Solvyren の計算サービスは 2 つの部分から成ります。独立した提供者の GPU 計算力を集約するプラットフォームと、Solvyren 自身が運用する GPU サーバー基盤です。いずれもサービスとして限定的に提供され、提供者の受け入れと購入は段階的に開始します。

パート A — GPU 集約プラットフォーム（開発中）。RTX 5090 や RTX PRO 6000 クラスなど高性能 GPU の所有者の多くは、計算力はあっても顧客や貸し出し経路を持っていません。一方、推論や生成の需要は多

数の中小利用者に分散しており、個々の所有者と直接契約するのは困難です。プラットフォームはこの隔たりを埋めるよう設計されています。提供者が GPU を登録し、プラットフォームが各機器を識別・確認し、ジョブを適したハードウェアに割り当て、実際に提供された作業を計量し、オンチェーンのアカウントに結び付いた記録で精算します。提供者は検収された作業に対して、第 04 章の 20% / 80% の収益配分計画の範囲で利用料や手数料を得ます。提供者の受け入れはまだ始まっておらず、段階的に開始します。現時点で Solvyren に GPU を登録することはできません。貸し出し収入は需要に左右され、保証されません。

集約プラットフォームは 3 つの面でネットワークに価値を加えます。採掘者のハードウェアに 2 つ目の用途を与えること、遊休の計算力を AI サービスの供給に変えること、そして SVY を守るのと同じアカウントとファイナリティ記録で計量・精算を監査可能にすることです。

パート B — 自社運用の GPU サーバー。Solvyren は自社の GPU サーバー基盤を運用し、その計算出力をサービスとして顧客に提供します。クラウドコンソールに表示されている現在の製品は採掘ハッシュレートのレンタルです。顧客はハッシュレートと期間でプランを選び、報酬は有効ハッシュレートと稼働時間に応じて確定済みブロックから配分されます。サーバーへのアクセスや操作は提供しません。公式参考価格（USDT）は下表のとおりです。各プランの枠は 20、各アカウントは各プランを 1 回のみ注文でき、1 MH/s プランは初回限定のお試しです。現在は購入できません。プランは数量限定で段階的に提供を開始します。

ハッシュレート、ジョブ時間、推論スループットは異なる指標であり、1 つの収益値にまとめることはしません。プランや価格はいかなるリターンも示唆しません。

プラン（参考価格、USDT）	7 日	15 日	30 日
1 MH/s お試し（初回注文のみ）	19.9	—	—
3 MH/s	100	190	350
8 MH/s	240	450	840
20 MH/s	530	999	1680

06 / 技術アーキテクチャ

Solvyren は 2 つのアーキテクチャ層から成ります。チェーン層は稼働中です。AI・計算プラットフォーム層は開発中で、正式な提供開始や一般公開はしていません。

パート A — 稼働中のチェーン層。Solvyren ノードは Substrate フレームワーク上に構築され、ジェネシスハッシュ 0x678107bc4d21a4e7f9b12ee817af0c93f074cf04fbd7ee716976af42ca92f4c8 のメインネットを運用します。ブロックは SMW-16/2048 v1 の作業証明で封印され、GRANDPA で確定します（第 07 章）。ランタイムはアカウント、残高、送金、手数料バーン、発行計画を管理します。現在のノードリリースは mainnet-retarget-24121 で、チェックサムとともに GitHub の NYCTEAM/solvyren-svy で公開されています。フルノードは TCP ポート 30333 でピアと接続します。

採掘者は公開 SVY 受取アドレスとワーカー名で公式プール tls://pool.solvyren.com:18444 に接続します。プールは SMW 作業を配布し、再計算によってシェアを検証し、確定済みブロックから報酬を支払います。GPU 採掘とクラウド採掘の報酬には 0.25% のプール手数料がかかります。採掘者は自身のノード

を運用することもできます。公式マイナーは Windows（NVIDIA・AMD）、Linux、HiveOS に対応しており、AMD ハードウェアでのシェア提出と自動支払いは検証中です。

読み取りは公開されています。SVYscan（scan.solvyren.com）がブロック・取引・アドレスを索引し、読み取り専用の HTTPS JSON-RPC が開発者向けに提供され、公式セルフカストディウォレットは WSS で接続します。

パート B — AI・計算プラットフォームのアーキテクチャ（開発中）。提供者の受け入れ：GPU はオンチェーンのアカウントで参加し、ハードウェアを申告し、機器確認を通過してからジョブを受け取ります。自己申告の速度だけでは信頼できる容量とはみなしません。スケジューリングとマッチング：スケジューラーが各ジョブを適した GPU に割り当て、ジョブをその提供者と要求条件のハッシュに結び付け、割り当て時に最大支払額を予約します。計量：利用受領記録がジョブごとのモデル、実行環境、計測された利用量を記録し、丸めはジョブごとに 1 回です。精算：スケジューラーとは分離された検収役が結果を受理または却下し、受理された作業のみ支払われ、未使用の予約は解放され、照合できる記録が残ります。提供：推論・画像・動画の要求は Solvyren のアプリと API から入り、提供者の GPU または自社運用サーバーに振り分けられます。1 枚のカードを 2 つの用途に：GPU はスケジューラーの管理下で採掘と AI ジョブを切り替え、ジョブ中は 60–120 秒のローリング予約で採掘の持ち分を保護します（第 03 章）。

これらのプラットフォーム構成要素は設計・試験中で、いずれもまだ本番サービスではありません。AI の出力はコンセンサス証明ではありません。

07 / コンセンサス：SMW-16/2048 v1 と GRANDPA ファイナリティ

作業証明。採掘者は nonce ごとに決定的な行列入力を生成し、16×2048 行列と 2048×16 行列を掛け合わせ、結果コミットメントをチェーン識別、期待される親ブロック、封印前ヘッダー、受益アカウントに結び付けます。そのコミットメントが現在の難易度目標を満たすとブロックは有効です。ノードとプールは同じ規則で同じ作業を再計算します。SMW はブロック生成のための行列作業証明であり、モデル学習や AI 推論ではありません。

難易度。目標ブロック間隔は約 10 秒です。ローリング難易度調整はブロック 24,121 で有効になり、直近のブロック時間から難易度を調整して、ハッシュレートが変化してもブロック間隔が目標に沿うようにしています。フルノードは mainnet-retarget-24121 または互換性のある新しいリリースを実行する必要があります。

ファイナリティ。作業証明が最良チェーンを作り、GRANDPA が履歴を確定します。最良ブロックは現在のチェーンヘッドで、再編成により変わる可能性があります。確定済みブロックは確定した履歴の一部です。有効な作業、ブロックへの取り込み、確定は 3 つの異なる段階であり、報酬と精算は確定済みの記録に基づきます。

商用注文には独自の提供・照合プロセスがあります。確定したネットワーク記録だけでは、クラウドサービスの提供や AI の回答の正しさは証明されません。

08 / 検証可能なAI計算の作業証明：目標プロトコル

目標メカニズムを「検証可能なAI計算の作業証明」と呼びます。参加者が明確な入力と検収規則を持つ AI 計算を実行し、確認可能な結果を提出し、受理された有効作業に報酬を与える設計です。制約付き行列乗

算（GEMM）、モデル演算子、推論を研究対象とします。行列演算は構成要素であり、有用性には実際のタスクと提供需要が必要です。

タスクにはネットワーク、番号、ブロックや期間、モデル・入力のハッシュ、数値精度、実行予算、期限、受益口座を結び付けます。重複記録や別タスクへの再送防止に使いますが、それ自体で実行の正しさを証明しません。

GPU 実行者は出力コミットメント、受領記録と計算記録を提出します。検証側は合意済みの規則で対応演算子やタスクを独立再計算します。標本確認や重複実行は検出能力・費用・数値許容誤差の定義を要する研究手段です。出力ハッシュや別の AI の採点だけでは完全な決定的合意証明になりません。

目標の流れは割当 → 計算 → 正確性と重複確認 → 受理 → 最終確定 → 報酬記録です。作業重み、検証者報酬、紛争処理は規定が必要です。発行報酬と顧客の推論料金は別会計とし、二重精算や需要による追加発行は行いません。

推論サービスでは顧客がモデル・入力・資源・検収条件を指定し、利用可能な GPU へ割り当てます。結果と実行記録を返し、注文検収に従い精算します。サービス支払いとブロック報酬は別で、将来の合意への参加には明示的なプロトコルが必要です。

現在の実装状態：Solvyren メインネットは MatMul 型作業証明 Solvyren MatrixWork（SMW-16/2048 v1）と GRANDPA ファイナリティを使用しています。公式マイナーは NVIDIA GPU で稼働しており、AMD ハードウェアでのシェア提出と自動支払いは検証中です。AI 推論は別タスク・別報酬会計で、開発中であり未公開です。推論出力は SMW のコンセンサス証明として扱いません。

09 / 採掘と計算サービスの比較

特徴はハッシュ探索の改名ではなく、Network・Compute・SVYscan の製品体験の統合にあります。それぞれチェーン記録、資源サービス管理、公開照会を担います。

Compute はハッシュ速度と報酬だけの画面より広い、機器・注文・計量・精算の流れを目指します。一般の GPU サービスに対しては独自の口座・取引・最終確定記録を組み合わせる設計です。チェーン記録だけでは AI の正答や商用提供の完了を保証しません。

高収益、低消費電力、GPU 専用性は約束しません。対応作業、資源仕様、費用、提供状況、記録の透明性が選択基準です。

項目	従来のハッシュ採掘	Solvyren 製品設計
ネットワーク作業	難易度目標に合うハッシュ探索	SMW-16/2048 v1 行列作業チケット（MatMul）
参加	単独またはプール	自己 GPU と GPU クラウドサーバーを有効 Share で統合
記録	ネットワークやサービスによる	Network・Compute・SVYscan の入口を連携
AI 計算	ハッシュ探索自体は AI 作業ではない	推論は別検収・別報酬で、規則に従い算力を予約
選択基準	有効作業・費用・競争	有効 Share・サービス仕様・提供・透明な記録

10 / 現在の参加方法

自分の GPU で採掘する。公式サイトから公式マイナーをダウンロードしてチェックサムを確認し、プールアドレス tls://pool.solvyren.com:18444、公開 SVY 受取アドレス、ワーカー名を入力して採掘を開始します。機器・電気・通信・保守は自身の運用費です。各パッケージの現在の状況はダウンロードページで確認してください。AMD のシェア提出と自動支払いは検証中です。

フルノードを運用する。運用者と開発者は mainnet-retarget-24121 リリースでフルノードを運用してチェーンを独立に検証でき、SVYscan や読み取り専用 RPC で公開データを照会できます。

AI・計算への参加。AI サービスの GPU 提供者になること、AI サービスへの加入、クラウドサーバープランの購入はまだ公開されていません。段階的に開始し、サービス状況ページとリリース資料で告知します。

11 / SVY と資産配分

検収済みの AI タスクがなければ、AI 報酬は発行されず、市場にも流通しません。未使用の配分枠は累積します。運営が報酬を設定し、割り当て時に枠を予約します。認証済み端末がタスクを完了し、検収を通過すると、確定額が一度だけ支払われます。予約時点でウォレット残高は増えません。

計画上の発行上限は 2 億 1,000 万 SVY です。チームの初期配分は 1,000 万、残り 2 億は報酬予算です。発行済み数量と市場流通量は区別します。

配分	割合	数量 (SVY)
チームのジェネシス	≈4.76%	10,000,000
報酬予算	≈95.24%	200,000,000

手数料とバーン

通常の SVY 送金の基本手数料は 0.000005 SVY です。プロトコルは支払者から手数料を差し引き、オンチェーン発行済み供給量を同額減らします。手数料の受取先や DEAD アドレスはありません。

メインネットのブロック #397 の 10 SVY 送金では、TransactionFeePaid に手数料、balances.BurnedDebt に同額のバーンが記録されています。いずれも 0.000005 SVY（最小単位で 5,000,000）です。

発行上限は 210,000,000 SVY で、ジェネシス配分 10,000,000 SVY と報酬予算 200,000,000 SVY を含みます。オンチェーン発行済み供給量は、最終確定ブロック時点の実際の発行量からバーン済みの数量を引いた値です。

各ブロックの報酬枠の 20% は基本マイニング、80% は AI 報酬の支払い可能枠です。AI タスクが検収を通過するまでは 80% の枠が積み上がるのみで、SVY は発行されず、市場に流通しません。検収後に承認額が発行されます。

12 / ブロック高に基づく発行

第 1〜1,576,800 ブロックの予算は各 15 SVY。通常採掘は 20% の 3 SVY、AI 配分枠は 80% の 12 SVY です。第 1 ブロックで検収がなければ採掘による発行は 3 SVY、AI による発行は 0 SVY で、12 SVY の枠が残ります。

1,576,800 ブロックごとに各ブロックの予算が前期比 11.826% 減少します。第 1,576,801 ブロックでは 13.2261 SVY（採掘 2.64522、AI 枠 10.58088）です。目標間隔 10 秒で約半年ですが、切替はブロック高で決まります。

13 / SVYscan：読みやすいネットワーク記録

SVYscan はブロック・取引・アドレスから送金と口座活動を照会します。製品の結果を公開記録で追うための入口です。

ノード由来のデータを用い、最終確定と索引進行を表示します。接続や記録が利用できない場合、不明な残高をゼロに変えず利用不可と示します。

正しいネットワーク識別と合わせて使う必要があり、合意や注文の提供証明を代替しません。

14 / ウォレットとアカウント

Solvyren はネイティブの AccountId32 / SS58 アカウントを使用します。公式セルフカストディウォレット wallet.solvyren.com はブラウザー内でアカウントを作成・インポートします。クラウドコンソールも同じメインネットを使うため、同じリカバリーフレーズからは同じ SVY アドレスが生成されます。公開アドレスは受取と照会に使います。秘密鍵とリカバリーフレーズは所有者が保管し、サイト、サポート、照会フォームに決して入力しないでください。

送金前にネットワーク、アドレス形式、金額、手数料を確認してください。他のネットワーク上の似た名前や記号は同じ資産を意味しません。SVY と表示されているだけで送金ネットワークを選ばないでください。

サービス用ウォレットと個人のセルフカストディウォレットでは責任が異なります。Solvyren は保管サービスを提供せず、Solvyren の関係者が鍵を求めることはありません。

15 / ロードマップ

フェーズ 1 — メインネットと採掘（稼働中）。GRANDPA ファイナリティを備えたプルーフ・オブ・ワーク型メインネット、公式プール、マイナー、ノードリリース、SVYscan、セルフカストディウォレット。

フェーズ 2 — ネットワーク強化。公開ノードとブートノードの追加、AMD 検証の完了、マイナーのパッケージ改善、ドキュメントの拡充。

フェーズ 3 — AI サービス。推論・画像生成・動画生成を含む利用者向け Solvyren AI サービス。サブスクリプションのプランと従量制 API を備えます。開発中。

フェーズ 4 — 計算プラットフォーム。GPU 所有者向けの提供者受け入れ、スケジューリングとマッチング、20% / 80% の収益配分計画による計量と精算、自社運用 GPU サーバープランの段階的な提供開始。

開発中。

フェーズ 5 — 検証可能な AI 計算。第 08 章の検証可能な AI 計算の作業証明に向けた段階的な取り組み。明確なプロトコル上の決定を前提とします。

各フェーズは暦日ではなく完了基準で進み、収益予測は付随しません。

16 / 現在の提供状況とリスク告知

現在利用可能：Solvyren メインネット、公式プールまたは自身のノードによる公開採掘、チェックサム付きの公式マイナーとノードリリース、SVYscan、読み取り専用 RPC、セルフカストディウォレット。

未公開：AI 推論と本番推論 API、画像・動画生成、AI サブスクリプション、GPU 提供者の受け入れ、クラウドサーバーの購入。これらは開発中で段階的に開始し、サービス状況ページとリリース資料で告知します。

リスク告知。SVY はネットワークのネイティブ資産であり、投資商品ではありません。採掘収入や将来の提供者収入は、需要、ネットワーク状況、競争、ハードウェアと電力のコストに左右され、保証されません。市場環境や予定機能を含む本書の将来に関する記述は、SVY の価格やリターンの予測ではなく、変更される可能性があります。ソフトウェアには不具合が含まれる可能性があるため、公開されたチェックサムでリリースを確認してください。

17 / やさしい解説と用語集

ブロックチェーン：多数のコンピューターが共同で保持する台帳です。各ブロックは取引を記録して前のブロックを指すため、履歴をひそかに書き換えることはできません。

プルーフ・オブ・ワーク（PoW）：次のブロックを誰が追加するかを決める方法です。採掘者は計算を費やして有効な結果を見つけ、他の参加者はそれをすばやく検証できます。

SMW-16/2048 v1：Solvyren の作業証明です。ハッシュ計算だけでなく、試行ごとに 2 つの行列（16×2048 と 2048×16）を掛け合わせます。GPU が得意とする種類の演算です。

ファイナリティ（GRANDPA）：ブロックが確定し、巻き戻されなくなる時点です。それまでは最新のブロック（「最良」ブロック）が変わる可能性があります。

マイニングプール：多くの採掘者の作業をまとめ、提出された有効な作業に応じて報酬を分配するサービスです。Solvyren の公式プールは tls://pool.solvyren.com:18444 です。

GPU 計算レンタル：ハードウェアを買う代わりに、期間またはジョブ単位で GPU の計算力を有料で利用することです。

推論：学習済み AI モデルを実行して回答、画像、動画を生成することです。AI 製品が使われるたびに発生します。

API：他のソフトウェアがサービスに要求を送り、結果を受け取るためのプログラミングインターフェースです。

サブスクリプション：定期的な支払いで、一定のプランのサービスを利用できる仕組みです。

SVY の役割：SVY は Solvyren ネットワークのネイティブ資産です。取引手数料（バーンされます）の支払いに使われ、ブロック報酬の単位でもあります。SVY を保有してもプラットフォーム収益を受け取る権利は生じません。

1 枚のカードを 2 つの用途に：1 枚の GPU が SVY を採掘し、AI サービスの公開後は AI ジョブにも対応し、スケジューラーが両者を切り替えます。